

# いじめ防止プログラム

## ■プログラムの目的

「いじめ防止プログラム」は、小学校、中学校の授業時間（5時間）を使いながら進める、暴力防止プログラムです。本プログラムの目的は、いじめを未然に防ぐことにあります。更に、既にいじめが生じている場合は、いじめがより深刻なものに発展しないように、自分では「ふざけただけ」、「からかっただけ」と思っている行為が、実は相手の心を傷つけていることに気づき、当事者だけではなく、周囲にいる生徒たちがいじめを抑止することを目的としています。

## ■プログラムの構成

「いじめ防止プログラム」は、生徒が自分自身や他者との人間関係について考え、ワークショップを通して自尊感情を高めることを学び、暴力によらないコミュニケーション方法を身につけられるよう組み立てられています。

ワークショップに先立ち、生徒を対象に講演会を行います。できるだけ多くの教職員、保護者、地域の大人の参観を期待しています。いじめは学校内だけの問題ではないからです。

講演会後は、保護者、地域の方たちと意見交換を行い、ワークショップの進め方を説明し、参観を促します。

ワークショップは講演会后、約1週間経ってから始めます。ワークショップの冒頭では、全員が安心して参加できるよう、生徒と一緒にルール（約束ごと）を作ります。

ワークショップ③からは「スクール・バディ」のパネルを持参し、教壇に置くようにして「スクール・バディ」編成の予告を始めます。ワークショップ④では「スクール・バディ」募集の案内をし、どのような活動か丁寧に説明する時間を設けます。募集期間は1週間程度、応募者は8時間の「スクール・バディ・トレーニング」という研修を受ける必要があること、部活や私用の調整が必要であることも伝えます。



**スクール・バディ(School Buddy)活動へ**



## 実施計画（中学校）

|      |   |
|------|---|
| テーマ  | いじめ防止の輪を広げ、安心できる家庭、学校、地域社会を作る   |
| 内容   | 人権尊重の視点に立ち、いじめを防止するためにどのような行動をとるか一人ひとりが考える  |
| 目的   | 講演会：「いじめ防止プログラム」のオリエンテーション<br>いじめを防止するためには、家庭、学校、地域の協力が必要であり、保護者、教師、地域の大人の行動も重要であるという共通認識をもつ<br>ワークショップ：いじめをなくそうとする意識と行動化する意欲を高める   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふざけただけ」「からかっただけ」と思っで行う行為が、実は相手の心を傷つけていることに気づく</li> <li>・被害を受けた時、いじめを見た時、信頼できる人に相談する</li> <li>・いじめ防止の必要性を理解し、行動を起こす</li> </ul>  |
| 対象   | 中学校 1～3年生   |
| 参観   | 保護者、教職員、地域で活動している民生委員、児童指導委員、人権擁護委員、保護司等の大人   |
| 回数   | 講演会：1回（50分）<br>ワークショップ：4回（各50分）   |
| 人数   | 講演会：300人程度<br>ワークショップ：30人～40人程度のクラス単位向け   |
| 指導者  | 本プログラムの指導は、湘南 DV サポートセンターのファシリテーターが行う   |
| 全体計画 | <p>講演会：オリエンテーション</p> <p>ワークショップ①：いじめは許されない（いじめの定義、被害者・加害者の気持ち）</p> <p>ワークショップ②：加害者の背景（加害者のイメージ）</p> <p>ワークショップ③：大切な自分（自分自身と向き合う、友だちのことを知る）</p> <p>ワークショップ④：伝えよう、いじめ防止（自分も相手も大切にする、アサーション）</p> <p>*発表会（学校と相談し、ワークショップで学んだことを文化祭などで発表する機会を作れるとよい）</p> |